

国連決議文 SDGs 「前文」を読む—英語語彙と文法から見えてくるもの—

高橋 玄一郎

キーワード：SDGs、構成、英語語彙、文法、言語教育

要旨

本稿は、SDGs (Sustainable Development Goals; 持続的開発・発展目標) に係る国連決議文 (2015) 原文にある「前文」をテキストとして、特に語彙、文法、構成に注意を払いながら解釈し、英語教育・学習に資すると思われる特徴的な面を指摘し、それらに考察を加えるものである。

この国連決議文は、いわゆる学術的文章とは趣きが異なるが、全世界の国民、民族一人ひとりに向けられた内容を有する点で、社会的に開かれたグローバルな文章といってよいであろう。そのテキストの素材はいわゆる EIL (English as an International Language) と考えられ、適切な配慮のもとで英語教育・学習の対象ともなりうる。とりわけ社会的な文脈を踏まえた解釈をする教材として利用価値が高いと思われる。

構成や語彙・文法の観点から考察をして見えてくるものは、少なくとも以下の6点である：(1)文章構成法上の工夫：決議文は、その宣言の中核にSDGsを謳うことを念頭にしながら、決議文全体の「前文」や宣言の「導入部」を設けている点に特徴がみられる。その機能を発揮する上で、3重の「入れ子」構造を成している。(2)単なる単語の累積ではない、汎用性の高い句レベルの表現の活用：言及される主要語彙の理解を深める方向での句表現がみられる (e.g. *poverty in all its forms and dimensions*)。 (3)類義表現の活用：(近い文脈内で同じ表現を繰り返し用いることを避ける場合 (e.g. *eradicating poverty vs. ending poverty*) と同一文脈内で同義的な意味領域を共有しながら、同時に微妙な意味合いを表現し分ける場合 (e.g. *goals and targets*) が観察される。(4)日常の感覚に根ざす隠喩 (メタファー) と、それを基軸とした関連語彙の活用：いわゆるSDGsに係る2030年までの時限付き目標への組織的な取り組みが、*journey* という隠喩により表現され、その関連語彙・表現が同じ文脈内で用いられ (e.g. *steps, path, embark, "no one will be left behind"*)、一つの印象的な意味空間を構成している。(5)文脈上の主題に沿った無生物主語構文の活用：文脈上の叙述の視点をそろえながら物主構文を使い、同時に主題を強調する表現効果を生んでいる。(6)抽象名詞の普通名詞化の観察：抽象名詞の抽象概念を具体化して認識することで、その行為や事例を数えられる普通名詞として用いる事象が少なからず観察できる (e.g. *freedoms, partnerships, responsibilities*)。少なくともこれらの観点を実際の英語教育・学習上の検討課題としたい。

0. はじめに

何らかの意図をもって表現された発信者の言葉全体を、その受信者が能動的に解釈を行い、何らかの応答を行うことは、日常のコミュニケーションのなかで、話し言葉、書き言葉を問わず、日常的に行われている。コミュニケーションの道具の一つとしてのことばが、外国語である場合、そのコミュニケーションに係る人間のことばの運用力が、大なり小なり問われることとなる。グローバル化した情報化社会のなかで、言葉の運用力は死活問題ともいえる。そうした点を踏まえ、長い時間をかけて言葉やそれに関係する様々な教育や学習が行われている。

外国語、たとえば英語も、教育や学習の方法は、その目的に応じて、多種多様である。その際、大学共通教育英語においては、市販のテキストが広く利活用されている。大学共通教育英語も同

様である。そのようなテキストは、一定の期間内に一通りの教育・学習が効率的に進められるように、さまざまな工夫が施されており、学生と指導者に大変、重宝されている。その工夫の一端は、一つのテキスト全体の分割、編集であることが少なくない。

しかしながら、時間や効率を優先するあまり、発信者の意図をくみ取る際に、テキスト全体を相手として、それを能動的に、批判的に解釈し、それに対して応答していく教育・学習の場は、必ずしも多くはないように見受けられる。本稿では、既に舵の切られた国際社会とその地球市民一人ひとりの喫緊の課題といえる SDGs を英語教育・学習のテキスト（教育や学習のために利用する素材）とする場合を想定し、その発信者の意図を、まずは能動的に解釈するための視点について考えてみたい。そのようなアプローチを手掛かりとする読みの試みが、SDGs の受信者自らが、SDGs 発信者や他者への応答となる。SDGs や他の SDGs 受信者に対する、確認、質問、関連する新規情報提供などを、よりよく行えるための土台を提供する一助となれば幸いである。

いわゆる SDGs をテキストとした場合、語彙、文法、構成の観点からどのような見立てが可能であろうか。以下、SDGs 決議文の構成を概観した後（第1節）、とりわけ「前文」を中心にテキストと対峙し、英語教育・学習上の便宜が図れる方向で考察を展開し（第2節）、最後に、英語語彙と文法の観点から見えてくるものについて、簡潔なまとめを行う（第3節）。

1. SDGs 決議文の構成概観

国連が定めた、いわゆる SDGs の原題は、“Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development” と呼ばれる（United Nations 2015）。これは国連で採決された決議文（Resolution adopted by the General Assembly on 25 September 2015）であり、追って確認できるように、困難な課題を克服していくための、人類全体の行動計画といえる。また、これは、MDGs（Millennium Development Goals；ミレニアム開発目標；2000）の後継である点にも留意が必要である。

SDGs 決議文の全体構成は以下のようになっている。便宜上、アルファベットと算用数字を、適宜、組み合わせながら、パラグラフ単位を基本に構成項目を列記してみる。SDGs のいわゆる 17 の目標と課題は、どのように位置づけられているであろうか。

それは、追ってみるように、「宣言」の中心部に示されているが、その前段に、SDGs 決議文全体の導入部にあたる「前文」があり、その後に「宣言」があり、その中で SDGs が紹介され、かつ、その行動計画に係る実施方法に必要な連携の在り方や、行動の確認と評価に係るくだりが含まれている。但し、この宣言内には、宣言の前文ともいえる導入部が置かれている点も忘れてはならない。

前文を置くことで、SDGs 決議文の目的と骨子を端的に表している。それは広く世界に訴え、国家や自治組織はもとより、全地球市民に対して、理解と協力を求めるための工夫の一環といえる。前文は短いものであるが、表現に込められた思いの密度は濃いものとなっていると思われる。

構成を考察するうえで、以下、全体の見取り図を確認しておきたい。

A. Preamble（前文）：パラグラフ1-10 [B 全体への布石]

B. Declaration（宣言）：パラグラフ1-91

B₀.（宣言内の導入部）パラグラフ1-53. [A を踏まえて B₋₁, B₋₂, B₋₃への布石]

B₀-1. Introduction（序論）：1-6.

B₀-2. Our vision（我々の見通し）：7-9.

B₀-3. Our shared principles and commitments（我々が共有する原則と公約）：10-13.

B₀-4. Our world today（今日の世界）：14-17.

- B₀-5. The new Agenda (新しい行動計画) : 18-38. [B₋₁への布石]
- B₀-6. Means of implementation (実施手段) : 39-46. [B₋₂への布石]
- B₀-7. Follow-up and review (経過観察と評価) : 47-48. [B₋₃への布石]
- B₀-8. A call for action to change the world (世界を変える行動への呼びかけ) : 49-53.
- B₁. Sustainable Development Goals and targets
- SDGs の目標と課題 : パラグラフ54
- (目標項目一覧挿入) Sustainable Development Goals (持続可能な開発に係る目的) [Goals 1-17.]
- Goal 1. End poverty in all its forms everywhere (貧困の撲滅) : (1.1~1.5) + (1.a & 1.b)
- Goal 2. End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture (飢餓の撲滅と食の安全保障) : (2.1~2.5) + (2.a ~2.c)
- Goal 3. Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages
(全年齢層の健康と安全・安心の確保) : (3.1~3.9) + (3.a ~3.d)
- Goal 4. Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all (教育の包摂・公正性と生涯学習の保証) : 4.1~4.7 + 4.a-4.c
- Goal 5. Achieve gender equality and empower all women and girls
(ジェンダーの平等と女子の基盤増強) : (5.1~5.6) + (5.a ~5.c)
- Goal 6. Ensure availability and sustainable management of water and sanitation for all
(水の安定供給と衛生) : (6.1~6.6) + (6.a & 6.b)
- Goal 7. Ensure access to affordable, reliable, sustainable and modern energy for all
(エネルギー保障) : (7.1~7.3) + (7.a & 7.b)
- Goal 8. Promote sustained, inclusive and sustainable economic growth, full and productive employment and decent work for all
(経済成長と労働機会の促進) : (8.1~8.10) + (8.a & 8.b)
- Goal 9. Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation (インフラの強靱化と産業開発) : (9.1~9.5) + (9.a ~9.c)
- Goal 10. Reduce inequality within and among countries
(諸国内・間の不平等の是正) : (10.1~10.7) + (10.a ~10.c)
- Goal 11. Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable
(安心でき、安定した街や居住空間の確保) : (11.1~11.7) + (11.a ~11.c)
- Goal 12. Ensure sustainable consumption and production patterns
(持続可能な生産と消費の確保) : (12.1~12.8) + (12.a ~12.c)
- Goal 13. Take urgent action to combat climate change and its impacts¹
(気候変動とその影響への緊急対策) : (13.1~13.3) + (13.a & 13.b)
- Goal 14. Conserve and sustainably use the ocean, seas and marine resources for sustainable development (海洋資源の持続的管理) : (14.1~14.7) + (14.a ~14.c)
- Goal 15. Protect, restore and promote sustainable use of terrestrial ecosystems, sustainably manage forests, combat desertification, and halt and reverse land degradation and halt biodiversity loss
(陸上生態系の保全と生物多様性の維持) : (15.1~15.9) + (15.a ~15.c)

¹ Goal13 の原注として、次のくだりがある : Acknowledging that the United Nation Framework Convention on Climate Change is the primary international, intergovernmental forum for negotiating the global response to climate change.

Goal 16. Promote peaceful and inclusive societies for sustainable development, provide access to justice for all and build effective, accountable and inclusive institutions at all levels

(司法による社会基盤制度と正義による人権擁護) : (16.1~16.10) + (16.a & 16.b)

Goal 17. Strengthen the means of implementation and revitalize the Global Partnership for Sustainable Development (グローバルな協力関係の維持強化策) : [17.1-17.19]

a) Finance (金融) : (17.1-17.5)

b) Technology (科学技術) : (17.6-17.8)

c) Capacity-building (能力養成) : (17.9)

d) Trade (貿易) : (17.10~17.12)

e) Systemic issues (制度問題) : [17.13-17.19]

1) Policy and institutional coherence (政策と機関連携) : (17.13-17.15)

2) Multi-stakeholder partnerships (利害関係者間の協力関係) : (17.16-17.19)

B₂. Means of implementation and the Global Partnership

(実施方法とグローバル連携) : パラグラフ60-71²

B₃. Follow-up and review (確認と評価) : パラグラフ72-91³

前文と宣言とから成る SDGs 決議文全体は、次のように三重の「入れ子」の構造によって示せるであろう。

【A 《B [B₀ (B₁ B₂ B₃)]】】

A : 前文、B : 宣言、B₀ : 宣言導入部、B₁ : SDGs の目標と課題、B₂ : 実施・連携方法、B₃ : 確認と評価

このように、全体の中心となる SDGs の目標と課題 (B₁) には、それらに不可欠な実施・連携方法 (B₂) と確認・評価 (B₃) が併記されている (上記、丸括弧部分)。そのまわりには、その中核へ導入するための諸要素を含む導入部 (B₀) があり、B₁, B₂, B₃への布石が入念に打たれている。これら B₀, B₁, B₂, B₃は組み合わせられて宣言を形成している。この宣言のまわりには、前文 (A) が用意されている。とりわけ、この前文 (A) と宣言導入部 (B₀) は SDGs を人々によりよく伝え、理解してもらうために必要な表現上の大切な工夫のひとつと考えられる。

このあと、外国語教育・学習に資する方向で、SDGs 主要17目標を念頭に置きつつも、紙幅の制約上、SDGs 決議文の前文 A (パラグラフ1-10) を主要な考察対象とし、その過程で、適宜、関連する宣言内の文章にも言及することとする⁴。この前文には、追って確認するように、決議文全体を統括すると同時に、人類全体へ広く SDGs を伝え、その理解を求めていく上で重要な役割を果たしている。

2. SDGs 決議文の前文 (Preamble) とその考察

便宜上、SDGs 決議文の前文に、丸付き番号を各パラグラフに振り、内容については、[] を

² パラグラフ 70 は、4 点の付記を含む。

³ B₃ 中のパラグラフ 74 は、小文字アルファベット項目 (a)~(i) までの 9 点を含む。また、パラグラフ 78 から 82 にかけては、3 つのレベルが設けられている : National level (パラグラフ 78-79) と、Regional level (80-81)、そして Global level (82-89) である。

⁴ SDGs を含む各項目の相互関係については、重要ではあるが、本稿では扱わない。

付して概要を添え、適宜、各括弧 [] を付して注記を加える。前文は、そのパラグラフの中には短いものもあるが、便宜上、10のパラグラフから成るものとする。また、英語教育・学習の観点から触れておきたい事項について、適宜、言及する。

前文 (preamble)

① This Agenda is a plan of action for **people, planet and prosperity**. It also seeks to strengthen universal **peace** in larger freedom. We recognize that eradicating poverty in all its forms and dimensions, including extreme poverty, is the greatest global challenge and an indispensable requirement for sustainable development.

(「前文」第1パラグラフ；太字は筆者による)

[概要：この決議は人類と地球の持続的な開発・繁栄、平和を目指す行動計画であり、その最大の課題は貧困の撲滅である。]

前文①の冒頭で、全体を貫くキーワードが4つ示されている(太字で示す)⁵。最大の課題は貧困を無くしていくことであるという。その際、貧困の種類(どのような形態の貧困か)と広がり(どこに分布しているのか)に言及している⁶。その形態と分布が、*forms and dimensions* であり、単語というよりも一塊のフレーズとして解釈する必要がある。同様の見立てが、「前文」内に *A and B* という形式で目につく：*poverty and want* (第2パラグラフ)、*goals and targets* や *the scale and ambition* (第3)、*consumption and production* (第6)、*fear and violence* (第8)、*the poorest and the most vulnerable* (第9) といったものである。

また、前文①の挿入句、*including extreme poverty* は、「極貧」という言葉を例示することで、貧困の形態と分布に加えて、貧困の程度も問題であることを物語っている。

Universal peace in larger freedom も、*peace* と *freedom* の類義性によって、まとまった句 (phrase) として解釈することができると思われる。たとえば、*peace* は、“*freedom from*” という視点から捉えることができる。例えば英英辞典では、以下のように記述されている：

- peace: 1.a. *Freedom from*, or cessation of, war or hostilities; that condition of a nation or community in which it is not at war with another.
2. *Freedom from* civil commotion and disorder; public order and security
- 3.a. *Freedom from* disturbance or perturbation (esp. as a condition in which an individual person is); quiet, tranquility. undisturbed state.
- 4.a. *Freedom from* quarrels or dissension between individuals; a state of friendliness; concord, amity.
5. *Freedom from* mental or spiritual disturbance or conflict arising from passion, sense of guilt, etc.; calmness; peace of mind, soul or conscience.

(OED²より主要語義を抜粋；斜字体は筆者による)

ここに例示した、いずれの語義の場合も、*Peace* は、戦争、内乱、妨げ、口論、雑念・邪念など、国外との関係上、国内の社会情勢上、個人の対人関係上、個人の精神状態上、平和・平安を阻む

⁵ 「前文」中に明示されるキーワードは合計5つあるとみられ、5つ目は「前文」の第二パラグラフで示される *partnership* である。

⁶ 貧困に関する理解の一助として、岩田(2015)を参照されたい。貧困という概念を捉える際に、その形態と分布という観点から考察されている。

ものを念頭におきながら、それらが「無い状態」を指していることがわかる。戦争のない平和は、戦争を意識してこそ得られる状態であり、戦争の憂いがない平安は、その憂いと対峙するところにこそ生まれるものといえよう。

さらに、このパラグラフでは、形容詞比較級と最上級を用いた句がみられるが (*larger freedom* と *the greatest global challenge*)、比較の基準にも気を付けておく必要がある。何を基準に *larger* なのか、何を基準に *greatest* なのか、という点である。*larger* においては、SDGs の一足前に取り組まれた MDGs (ミレニアム宣言) との比較や現在との比較がある一方、*greatest* においては、最大の課題に言及しつつ、貧困以外にも様々なレベルの人類の課題が待ち受けていることへの示唆ともなっているように思われる。

続くパラグラフ②をみてみよう。

② All countries and all stakeholders, acting in collaborative partnership, will implement this plan. We are resolved to free the human race from the tyranny of poverty and want and to heal and secure our planet. We are determined to take the bold and transformative steps which are urgently needed to shift the world on to a sustainable and resilient path. As we embark on this collective journey, we pledge that no one will be left behind.

(「前文」第2パラグラフ；下線は筆者による)

[概要：この行動計画を実行するのは、すべての諸国とすべての関係者であり、人類の貧困からの解放と地球の緊急保全を決心する道を進んで行くうえで、誰一人取り残されることがあってはならない。]

このパラグラフの冒頭の一文は、*all* を2回繰り返すことで、行動計画の遂行にあたり、*countries* と *stakeholders* の総出動というものが強調されている。*all* を2回繰り返すことなく、*all countries and stakeholders* のように *all* が両名詞にかかる表現として使えるところであるが (cf. $X(A+B) = XA+XB$)、そのような共通構文は敢えて使われていない。

2文目と3文目では、決意の状態を *be resolved to do* と *be determined to do* という類義表現的なフレーズを用いて、同一のフレーズを繰り返し用いることを回避している。文脈上、ここでは意味の差はない。

このパラグラフの最終文では、*journey* (旅) が、SDGs の達成を目指す活動の隠喩 (メタファー) として使われている。壮大な行動計画の目的に向かって邁進する覚悟と行動を、「旅」という経験上の出来事に見立てている。経験に根差した旅という概念上の枠組みに、SDGs の取組みが重なる。*steps* (歩みから生じる施策) や *path* (道筋)、そして *no one will be left behind* (誰一人置き去りとしな) といった語や表現に見られるように、*journey* という出来事に見合う関連表現が隠喩的に用いられている⁷。

隠喩が単なる修辞表現ではなく、人間の日常生活の隅々にまで浸透していることを指摘した Lakoff & Johnson (1980) が思い起される。彼らは隠喩としての *journey* について、以下のようにコメントしている：

A journey takes an extended period of time, covers a lot of ground, and usually involves stopping at a number of destinations along the way before one reaches a final destination,

⁷ 当該パラグラフにはないが、SDGs 宣言の中心を成す *goals and targets* も、*journey* という概念の枠組みの中に含まれる。

if there is one. Given the Event-Structure metaphor⁸, journeys correspond to long-term activities, usually with a number of intermediate purposes.

The intermediate purposes are intermediate destinations, the ultimate purpose is the ultimate destination, the actions performed are movements, progress is movement toward a destination, the initial state is the initial location, and achieving the purpose is reaching the ultimate destination. Every aspect of the source domain of the Event-Structure metaphor may occur in some kind of journey, and hence journeys are very useful for talking about long-term-activities of many kinds.

(Lakoff & Johnson 1999: 193-194 ; 下線は筆者による)

[概要：旅には、出発点と終着点があり、人はその道すがら、いくつかの寄り道をしてその目的を果たしながら移動を続け、やがて最終的な到達点へたどりつく。旅という出来事は、様々な長期に亘る活動を語る際には大変重宝する概念である。]

つまり、旅というものの経験が、旅以外の経験に重ね合わせるかのようにして認識できることを指摘している。旅には、旅を形作る主体の姿（単独か二人かグループか集団か）、出発点と目的地、その道中の様々な中継点や不意の寄り道、移動経路など、旅という出来事を構成する主要要素が存在する。SDGsの取り組みを日常経験のひとつである旅の出来事に重ね合わせることで、その取り組みが具体的に認識しやすくなると考えられる。

この *journey* という言葉は、宣言内の52と53でも使われ、その場所はまさに、その旅の道程表ともいえる17の目標と課題のくんだりとの接合箇所にあたる。宣言内の導入部は、いわば、宣言「前文」の内容を拡大させて相似形としたものとも考えられよう。

さて、*journey* が使われる宣言内52のことばを確認しておこう。

“We the peoples” are the celebrated opening words of the Charter of the United Nations. It is “we the peoples” who are embarking today on the road to 2030. Our journey will involve Governments as well as parliaments, the United Nations system and other international institutions, local authorities, indigenous peoples, civil society, business and the private sector, the scientific and academic community – and all people. Millions have already engaged with, and will own, this Agenda. It is an Agenda of the people, by the people and for the people – and this, we believe, will ensure its success.

(宣言内52；下線は筆者による)

[概要：我々の旅は、議会や諸レベル組織や先住民族のみならず各国政府を含むすべての人々を巻き込みながら、2030年までの行動計画の成就に向けて舵がきられている。]

旅の隠喩としての *journey* がどの移動経路によるかは、2文目の *embarking* (<embark) が乗船（海路）、搭乗（空路）を暗示する一方、同じ文にある *the road* は陸路の移動をイメージさせる点で、移動経路を一つに絞るようなこだわりはないとみられる。むしろ、陸海空を使って、その都度、移動に最も適した経路と手段を選び取りながら進んでいく大掛かりな旅ということになろう。そして、3文目冒頭の「我々の旅」という時の「我々」の基本的主体が、この文脈では単なる人々ではなく各国人民（“*we the peoples*”）であり⁹、その統括組織たる各国政府のかじ取り

⁸ 隠喩に係る認知言語学上の理論的な考察は割愛する。

⁹ *people* と *peoples* の形態上の違いによる概念の差異に注意が必要である。

役が強調されているように思われる。それは、3文目中の *involve* の目的部が *as well as* で列記される際に、相対的に力点の置かれる位置に *Governments*（各国政府）が据えられていることとも符合する¹⁰。SDGs 宣言のとりまとめ役である国連が各国代表を基本とする組織であることから、頷ける表現だと思われる。

また、この旅 *journey* の目的地はどこかといえ、文脈上、SDGs の *Goals* と考えられる。*OED*²では、この *goal* の語義について、*journey* を用いて次のように記述している：

goal: 2.a. The terminal point of a race; any object (as a pillar, mound, etc.) by which this is marked; a winning-post, or the like.

b. *fig.* The object to which effort or ambition is directed; **the destination of a (more or less laborious) journey.**

(太字は筆者による)

上記の語義は、2.a と 2.b とに分けられ、具体の目標物とそこから比喩的に転用される概念に区分して記述されている。*goal* の語義は、2.a. が競技上、目印となる何らかの具体の終着点であるのに対して、2.b では比喩的な転用による語義として、多かれ少なかれ苦勞の多い旅の目的地・到着地を指すとされている。

さて前文の第3パラグラフへ移ろう。

③ The 17 Sustainable Development Goals and 169 targets (*which we are announcing today*) demonstrate the scale and ambition of this new universal Agenda. They seek to build on the Millennium Development Goals and complete what they did not achieve. They seek to realize the human rights of all and to achieve gender equality and the empowerment of all women and girls. They are integrated and indivisible and balance the three dimensions of sustainable development: the economic, social and environmental.

(「前文」第3パラグラフ；下線と太字は筆者による)

〔概要：本決議の規模と志の大きさを表しているのが、17の持続的発展のための目標と169の課題であり、人権、ジェンダー平等、女性のエンパワーメントが関連し合い、MDGs を補完するものである。それは、経済、社会、環境という3つの面の均衡にもつながる。〕

SDGs の *Goals* と *targets* は、先にみた *eradicate* と *end* の類義性が文脈上、相互に代用可能であったのとは異なり、微妙に意味合いに差を持たせて使われている。*goal* が目標であれば、*target* は、その語源からして「小さな盾」を指示することから¹¹、比喩的転用上、その目標に近づいていく際の、いわゆる目標よりも小さな諸課題と考えられよう。

「前文」は、パラグラフ③までを受けて、小さな括りのことばをパラグラフ④として、次のように添えている。

④ The Goals and targets will stimulate action over the next 15 years in areas of critical importance for humanity and the planet.

¹⁰ 関連する事柄を追加、補足していく表現において、A as well as B の形式を用いる場合、not only B but also A の場合と対照的に、B（後置されるもの）よりも A（前置されるもの）に力点が置かれる。それは、一方が同等比較表現、他方が相関語句という、形式上の表現効果の結果と思われる。

¹¹ 『ジーニアス英和大辞典』（大修館、2001）や『英語語源辞典』（研究社、1997）の項 *target* を参照。

(「前文」第四パラグラフ；太字は筆者による)

[概要：SDGs 宣言にある目標と課題によって、我々は今後15年をかけて取り組みを加速させるが、それらは人類と地球にとって喫緊の重要性を秘めている。]

この直前のパラグラフ③の主語、つまり主題が一貫してSDGsの目標と課題であったことを承けて、その主題の延長線上でパラグラフ④により締め括られる。一文のみであるが、宣言の目標と課題を主語に据えることによって、それらが際立ち、行動主体となる我々の側は、*action*の中に組み込まれた形で *stimulate* の目的語となっている。いわゆる無生物主語構文である。目標と課題は、時限付きの我々の行動計画を促進させる狙いの一環であると示されている。

以下、決議文全体のキーワードが順次5つ示される。

⑤ People

We are determined to end poverty and hunger, in all their forms and dimensions, and to ensure that all human beings can fulfil their potential in dignity and equality and in a healthy environment.

(「前文」第5パラグラフ；下線は筆者による)

[概要：我々は、人類の抱える貧困と飢餓の撲滅とともに、尊厳と平等が担保される生活を人類が健全な環境の中で享受できるようになることを決意する。]

「前文」パラグラフ①で使われた *eradicating poverty* (貧困撲滅) が、パラグラフ⑤では動詞 *end* をもって表現されている。類義語で置き換える表現方法は英語の特徴である。その視点でみるならば、「前文」パラグラフ④の *humanity* と *planet* は、パラグラフ⑤の *human beings* と *environment* に呼応するといえよう。また、*a healthy environment* は、本来、*healthy* は、いわゆる生命体を形容する表現であるため、*environment* を人間に見立て擬人化したものといえるが、同時に環境が生命体であるという認識が示されてもいる。

以下、パラグラフ⑤にある *eradicating poverty* を発端とする類義語の視点で宣言全体から関連表現(以下の比較例)の多様性をみてみよう。角括弧内に簡単な注目点を記す(下線と太字は筆者による)：

比較例1) We envisage a world **free of** poverty, hunger, disease and want, where all life can thrive.

(宣言内7節；下線、太字は筆者による)

[注目点：下線部は、「貧困、飢餓、疾病や物資の不足の無い世界」を意味するが、*free of* によって、撲滅するという行為というよりは、その結果の状態に焦点を当てている。]

比較例2) One in which democracy, good governance and the rule of law, as well as an enabling environment at the national and international levels, are essential for sustainable development, including sustained and inclusive economic growth, social development, environmental protection and the **eradication of** poverty and hunger.

(宣言9節内；下線、太字は筆者による)

[注目点：下線部は、「貧困・飢餓の撲滅」を意味するが、この表現は、動詞句の *eradicate poverty and hunger* を名詞句表現に変えたものであり、前置詞 *of* 以下が *eradication* の対象物を示している。]

比較例 3) Alongside continuing development priorities such as **poverty eradication**, health, education and food security and nutrition, it sets out a wide range of economic, social and environmental objectives.

(宣言内17節；下線、太字は筆者による)

[注目点：下線部は、*development priorities* の具体例を *such as* 以下で言及する部分であり、「貧困撲滅、健康、教育、食糧保障、栄養（確保）」を意味するが、比較例 2 と異なり、*poverty* を前置することで *eradication* の対象物が前置詞 *of* を使わずに表現されている。]

比較例 4) 1.b Create sound policy frameworks at the national, regional and international levels, based on pro-poor and gender-sensitive development strategies, to support accelerated investment in **poverty eradication** actions.

(SDGs-1.b 項目内；下線、太字は筆者による)

[注目点：下線部は、貧困撲滅という行動（もしくは、貧困撲滅に係る行動）を意味する。名詞を二つ並べた *poverty eradication* が名詞句となっているが、この名詞句は、機能上は名詞の *actions* を形容している。形態上は名詞句でありながら、機能上は2語のまとまりを有する形容表現となっている。]

なお、*people* 単独ではないが、*people-centred*（人々を中心に据えた）という形容表現が散見される。

・ On behalf of the peoples we serve, we have adopted a historic decision on a comprehensive, far-reaching and **people-centred** set of universal and transformative Goals and targets.

(SDGs 宣言 2 節内；下線、太字は筆者による)

[注目点：下線部の基本構造は、*a set of Goals and targets* という名詞句であると考えられるが、*set* の前に二つ (*far-reaching* と *people-centred*)、*Goals and targets* の前に二つ (*universal* と *transformative*) の形容語句がついており、そのうちの一つが *people-centred* である。]

・ We will work to build dynamic, sustainable, innovative and **people-centred** economies, promoting youth employment and women's economic empowerment, in particular, and decent work for all.

(SDGs 宣言27節内；下線、太字は筆者による)

[注目点：下線部は、*economies* の形容語句が4つあり (*dynamic* と *sustainable* と *innovative* と *people-centred*)、そのうちの一つが *people-centred* である。]

・ Follow-up and review processes at all levels will be guided by the following principles: (e) They will be **people-centred**, gender-sensitive, respect human rights and have a particular focus on the poorest, most vulnerable and those furthest behind.

(SDGs 宣言74(e) 節 (a) から (i) までのひとつである (e)；下線、太字は筆者による)

[注目点：文全体について、*they* は *follow-up and review processes at all levels* を指すが、文の述部は *be* 動詞に導かれる補部、*people-centred*, と *gender-sensitive*、ならびに動詞句 *respect human rights* と *have* から *behind* までの部分である。]

さて、キーワードその1の *people* に関連する語として、*person, individual, human, humane, humanitarian, dehumanize* に言及しておく必要がある。まず、*people, person, individual, human* の4語について、SDGs と MDGs に係る国連決議文にみられる各語数を比較すると次のようになる（便宜上、SDGs 全文と17SDGs とを分けている）。

	people ¹²	person	individual	human
SDGs 全文	45 (内 -s x11)	13 (内 -s x12)	2 (内 -s x2)	42 (全 adj.)
17 SDGs	13 (内 -s x3)	7 (内 -s x7)	0	8 (全 adj.)
MDGs	11 (内 -s x4)	1	3 (n/adj./adv. 各1)	25 (全 adj.)

※ -s は当該語の複数形。また、n./adj./adv. は、それぞれ名詞、形容詞、副詞を表す。

SDGs 全文と MDGs を較べると、*people* と *human* が多く用いられているのが分かる。但し、*human* は語義上は人間（名詞）の意味も有するものの（一般的には *humans* として）、全ての文脈で「(動物や神に対する) 人間の」を意味する形容詞として用いられている。次例を見てみよう。

Recognizing that the dignity of the human person is fundamental, we wish to see the Goals and targets met for all nations and peoples and for all segments of society.

(SDGs 宣言内4節中；下線と太字は筆者による)

[注目点：下線部は、人間の尊厳を意味するが、*person* に焦点を置いたことに留意しておきたい。]

A world where human habitats are safe, resilient and sustainable and where there is universal access to affordable, reliable and sustainable energy.

(SDGs 宣言内7節中；太字と下線は筆者による)

[注目点：下線部は、人間の居住地を意味する。]

形容詞 *human* には、「人間に関する・人間の」という意味の他に、「人間味のある・人間らしい」の意味を有するが、その意味がふさわしいと思われる文脈では、*human* ではなく、人間味が強調される *humane* が用いられている¹³：

We will cooperate internationally to ensure safe, orderly and regular migration involving full respect for human rights and the humane treatment of migrants regardless of migration status, of refugees and of displaced persons.

(SDGs 宣言内9節中；太字と下線は筆者による)

[注目点：下線部は、移民・移住者を人道的に待遇することを意味する。]

¹² *people* を用いた形容表現として *people-centred* (人々を中心に据えた) があり、SDGs 決議文全体で3つの用例がある (宣言内2, 27, 74e)。

¹³ 人間味の中でも特に優しさ、親切さを強調するとき用いられるとしている (ジーニアス英和大辞典、*human* の項)。また、その延長線上で、若者の失業問題という文脈で *humanitarian* が用いられている：Unemployment, particularly youth unemployment, is a major concern. Global health threats, more frequent and intense natural disasters, spiralling conflict, violent extremism, terrorism and related humanitarian crises and forced displacement of people threaten to reverse much of the development progress made in recent decades. (SDGs 宣言内14節中；太字は筆者による) [下線部は、関連する人道的な危機を意味する。]

なお、*human* の派生形のひとつ *dehumanize* を用いたくだりが MDGs 宣言文にある：

We will spare no effort to free our fellow men, women and children from the abject and dehumanizing conditions of extreme poverty, to which more than a billion of them are currently subjected. We are committed to making the right to development a reality for everyone and to freeing the entire human race from want.

(MDGs 3章11節；太字と下線は筆者による)

[概要：10億以上の人類から極貧を産み出す非人道的な諸条件を取り除く努力を続け、各人が改善・向上に取り組む権利を現実のものとするべく我々は関わっていく。]

[注目点：下線部は、極貧をもたらす非人間的な諸条件を意味する]

person は、その大部分が複数形 *persons* として出現している。その場合、実質は *people* と同義ではあるが、十羽一絡げの扱いではなしに、個別の人格をもった一人ひとりに視点を寄せて比較的丁寧に言及される文脈で用いられているように思われる。たとえば、*older persons* (SDGs 宣言内2.2節、他)、*persons with disabilities* (SDGs 宣言内23節、他)、*displaced persons* (SDGs 宣言内29節、他) といった用例にみられる。

individual (個人) は相対的に使用頻度が低いが、社会の独立した唯一性をもつ構成員というニュアンスの用例にみられる。たとえば、次のくだりをみてみよう：

Sport is also an important enabler of sustainable development. We recognize the growing contribution of sport to the realization of development and peace in its promotion of tolerance and respect and the contributions it makes to the empowerment of women and of young people, **individuals** and communities as well as to health, education and social inclusion objectives.

(SDGs 宣言内37節；太字は筆者による)

[概要：スポーツも、社会を持続的に開発・発展させていく重要な牽引役を担っている。現に、スポーツは、健康、教育、社会的な包摂という点だけでなく、女性、若者、個人、地域社会に活力を与えるという点でも大いに貢献している]

ここまでの最初のキーワード *people* に関することからであった。次に、第2のキーワード *planet* へ進む。

⑥ Planet

We are determined to protect the planet from degradation, including through sustainable consumption and production, sustainably managing its natural resources and taking urgent action on climate change, so that it can support the needs of the present and future generations.

(「前文」第6パラグラフ)

[概要：我々は、持続可能な消費・生産、天然資源管理を通じて、地球温暖化対策の面から、環境の劣化・悪化をくいとめて、現在と未来の地球を保全することを決意する。]

ここでは、実質的に人類の諸活動の土台となる地球を自然環境 (natural environment) では

なく、惑星 (planet) と表現することで、地球をより客観視するとともに、5つのキーワードの頭文字をすべて *p* でまとめ得ることに寄与している。前文の中で5回、宣言の中では8回、*planet* が登場する。実質的には *environment* とその派生語彙 (i.e. *environmental* や *environmentally*) を用いて、多くの地球の自然環境に言及するわけであるが、自然環境以外でも、*environment* が用いられることもある (*environment* とその派生語彙12例中3例)。次例を参照されたい。

(比較例1) Build and upgrade education facilities that are child, disability and gender sensitive and provide safe, non-violent, inclusive and effective learning **environments** for all.

(17 Goals の Goal 4内4.a ; 下線と太字は筆者による)

[注目点：下線部は、「学ぶすべてのものにとって、安全で暴力のない、包摂的で効果的な学習環境」を意味するが、学習環境にも違いがあることから、複数形を用いている。]

(比較例2) Protect labour rights and promote safe and secure working **environments** for all workers, including migrant workers, in particular women migrants, and those in precarious employment

(17 Goals の Goal 8内8.8 ; 下線と太字は筆者による)

[注目点：下線部は、「すべての労働者のための労働環境」を意味するが、比較例1と同様に、労働環境に違いのあることから、複数形を用いている。]

(比較例3) Support domestic technology development, research and innovation in developing countries, including by ensuring a conducive policy **environment** for, inter alia, industrial diversification and value addition to commodities

(17 Goals の Goal 9内9.b ; 下線と太字は筆者による)

[注目点：下線部は、「とりわけ、産業の多様化と商品の付加価値を創るのに役立つ政策環境」を意味する。]

このように、*environment* は、自然環境だけに特化して用いられるものでないことに注意が必要である。

なお、宣言全体の中で、*planet* の代替語にあたる地球を表す *earth* (*Earth*) は3例、確認できる。

(比較例1) We recognize that there are different approaches, visions, models and tools available to each country, in accordance with its national circumstances and priorities, to achieve sustainable development; and we reaffirm that planet **Earth** and its ecosystems are our common home and that “Mother **Earth**” is a common expression in a number of countries and regions.

(宣言内59節 ; 下線と太字は筆者による)

[注目点：下線部は、その該当箇所であるが、1例目の *Earth* は、「地球という惑星」を意味する同格としての表現である。他方、2例目は、「母なる地球」を意味する隠喩を用いた表現である。]

(比較例2) We will support developing countries, particularly African countries, least

developed countries, small island developing States and landlocked developing countries, in strengthening the capacity of national statistical offices and data systems to ensure access to high-quality, timely, reliable and disaggregated data. We will promote transparent and accountable scaling-up of appropriate public-private cooperation to exploit the contribution to be made by a wide range of data, including earth observation and geospatial information, while ensuring national ownership in supporting and tracking progress.

(宣言内76節；下線と太字は筆者による)

[注目点：下線部は、地球観測を意味するが、*observe* の対象となる目的語を前置させて *observe* を名詞化した表現である。*observation of earth* といえば分析的な表現であるが、*earth observation* とすれば一体化した最も簡潔な表現となる。]

さて、planet に続いて、第3のキーワードに移ろう。

⑦ Prosperity

We are determined to ensure that all human beings can enjoy **prosperous** and fulfilling lives and that economic, social and technological progress occurs in harmony with nature.

(「前文」第7パラグラフ；太字は筆者による)

[概要：我々は、全人類が繁栄と充実感のある生活を享受し、自然との調和を図りながら、経済、社会、科学技術を発展させていくよう決意する]

ここでは、自然との調和からもたらされる恵みを人類が享受するという意味での繁栄が語られている。人類の単なる文化的な繁栄をいうのではなく、繁栄の基盤として、各国や地域が財政的、経済的に安定して成功している状況、状態をいう言葉である点に注意を要するようと思われる¹⁴。*prosperity* は、MDGs にはひとつも見られないが、SDGs 決議文全体の中で、「前文」内の1つを除き、「宣言」内で3つ用いられている（3節、8節、27節）。

・ Sustained, inclusive and sustainable economic growth is essential for **prosperity**.

(SDGs 宣言27節内；太字は筆者による)

[偏りのない、一定して持続可能な経済成長は、繁栄の必須条件である。]

・ We resolve also to create conditions for sustainable, inclusive and sustained economic growth, shared **prosperity** and decent work for all, taking into account different levels of national development and capacities.

(SDGs 宣言3節内；太字は筆者による)

[持続可能で、偏りのない、一定の経済成長と繁栄（富）の分配、そして皆が生きがいを感じられる立派な仕事、といったものを支える諸条件を創り出す覚悟であるが、その際、国ごとに異なる成長や能力を勘案する。]

・ We envisage a world **of** universal respect for human rights and human dignity, the rule of law, justice, equality and non-discrimination; **of** respect for race, ethnicity and cultural

¹⁴ たとえば、『Genius 英和大辞典』（大修館，2001）の *prosperous* の項、CIDE の *prosper* (*prosperity* の動詞形) の項を参照されたい。

diversity; and **of** equal opportunity permitting the full realization of human potential and contributing to shared **prosperity**.

(SDGs 宣言 8 節内；太字は筆者による)

prosperity を含むこれらの 3 例は、英文構造上、どれも、節 (clause) を結ぶ接続詞を持たない単文である。長さが最も長い、3 例目 (8 節内) の構造について注意しておこう。一つの文中にセミコロン (;) が二つ用いられていることから、いわゆる共通構文 X (A + B + C) として解釈する必要がある。つまり XA + XB + XC の内容を把握することとなる。便宜上、3 つの文に分けて確認しておこう：

XA: We envisage a world of universal respect for human rights and human dignity, the rule of law, justice, equality and non-discrimination.

[*a world of* 以下：人権、人間の尊厳、法による支配、正義、平等、無差別の原則をあまねく尊重する世界]

XB: We envisage a world of respect for race, ethnicity and cultural diversity.

[*a world of* 以下：人種、民族性、文化的多様性を尊重する世界]

XC: We envisage a world of equal opportunity permitting the full realization of human potential and contributing to shared **prosperity**.

[*a world of* 以下：人間の潜在能力を十分に発揮できる機会を平等にもち得る世界]

将来のビジョンとして思い描くのは、上記の *of* 以下に示すような 3 つの世界である、という受け止め方となる：

次のキーワード *peace* のくんだりへ移ろう。

⑧ Peace

We are determined to foster peaceful, just and inclusive societies which are free from fear and violence. There can be no sustainable development without peace and no peace without sustainable development.

(「前文」第 8 パラグラフ)

[概要：我々は、恐れや暴力とは無縁な、平和で公正な包括的な社会の形成を決意する。平和無くして、持続的発展無し、持続的発展無くして、平和なし。]

文面にあるように、平和である社会とは、同時に公正で包摂的で、恐れや暴力がないという点が指摘されている。また持続的発展の基盤が平和である旨が強調されている。*Peace* (*peaceful* 含む) は、MDGs では 1 回、SDGs 決議文全体の中で 18 回 (17 SDGs 内では 2 回) 用いられている¹⁵。「前文」パラグラフ①のコメントでは、*peace* をいわゆる平和と平安に分けて確認したが、国連創設を振り返りながら、平和に対する戦争 (war)、ここでは文脈上、第二次世界大戦を引き合いに出すくだりが一つある：

Seventy years ago, an earlier generation of world leaders came together to create the United Nations. From the ashes of **war** and division they fashioned this Organization and

¹⁵ 実質的な用例として、SDGs 宣言文 3 節、17 節、35 節、42 節、49 節、64 節を参照。

the values of **peace**, dialogue and international cooperation which underpin it. The supreme embodiment of those values is the Charter of the United Nations.

(SDGs 宣言文内49節；太字は筆者による)

[概要：70年前に、戦争の惨禍を経て、平和、対話、国際協調を基礎とする国際連合が創設された。この3つの価値を具現することが国連憲章に謳われている。]

戦争に対峙する平和は、当然のことながら、「前文」冒頭パラグラフで触れた“universal peace in larger freedom”に含まれる、多くの場合、平安の前提基盤ともいえる平和といえよう。次に五つ目の最後のキーワード、partnershipを確認しよう。

⑨ Partnership

We are determined to mobilize the means required to implement this Agenda through a revitalized Global **Partnership** for Sustainable Development, based on a spirit of strengthened global solidarity, focused *in particular* on the needs of the poorest and most vulnerable and with the participation of all countries, all stakeholders and all people.

(「前文」第9パラグラフ；太字は筆者による)

[概要：我々は、特に貧困の極致に苦しむ弱い立場の人々を念頭に置き、人類の持続的発展に向けた世界規模の連携により、この決議を実行する方法を駆使していく決意である。]

このパラグラフの *partnership* は“*Global Partnership for Sustainable Development*”というSDGs文脈でのいわば定型表現の中で、不可算名詞として用いられているが、可算名詞扱いの複数形も少なからず散見される。*partnership* という語彙はMDGsに1回、SDGs全体の宣言内で23回（内17SDGsのみで6回）用いられている。SDGsのみで見ると、Goal 17（グローバルな協力関係の維持強化策）の記述に集中している¹⁶。当該目標に必須のキーワードだからである。いずれも複数形 *partnerships* が多くみられる。ひとつ確認しておこう。

Enhance the Global Partnership for Sustainable Development, complemented by multi-stakeholder **partnerships** that mobilize and share knowledge, expertise, technology and financial resources, to support the achievement of the Sustainable Development Goals in all countries, in particular developing countries

(SDGs:17.16；太字は筆者による)

[概要：持続的な成長を目指してグローバルな協力関係を増やし、多方面の関係者が知識、専門的知見、技術、資金を結集させて補完し合い、とりわけ先進国でのSDGs達成を支えること。]

この決議文では、抽象概念としてグローバルな協力関係に言及するのに *Partnership*（殆どの場合、語頭を大文字）を用い¹⁷、数えられる具体の協力関係を指示する際には *partnerships* と表現している。このような概念の違いを名詞の数の単複によって表現し分ける語彙は、その他の日常語彙でも枚挙にいとまがない。抽象名詞の普通名詞化という言語事象である。例えば、*friendship*, *responsibility*, *cooperation* でも同様である（太字は筆者による）：

¹⁶ Goal 17 の他、その下位の記載事項 17.15, 17.16, 17.17 の3か所に見られる。

¹⁷ 次の用例では、語頭が小文字で抽象的な協力関係を示している：All countries and all stakeholders, acting in collaborative **partnership**, will implement this plan. (SDGs 決議文「前文」内)

・ Learning to play with other children and to form close **friendships** with some of them is a vital part of growing up. (BNC: AJY no.1241)

[自分以外の子と遊ぶなかで友人関係を育むようになることは、成長の過程で不可欠な要素である。]

・ We all have so many **responsibilities** in life that it is easy to forget how to have fun. (BNC: AYK no.941)

[人は皆、その人生で負うべき責任が多すぎて、人生の楽しみ方を覚えにくいものだ。]

・ We look for continuing constructive and responsible **cooperations** with these countries in international affairs. (BNC: no. 01586)

[我々は、この国々との国際関係上、継続性があり、建設的で責任ある協力関係を見出していく。]

「前文」最後のパラグラフを見てみよう。

⑩ The interlinkages and integrated nature of the Sustainable Development Goals are of crucial importance in ensuring that the purpose of the new Agenda is realized. If we realize our ambitions across the full extent of the Agenda, the lives of all will be profoundly improved and our world will be transformed for the better.

(「前文」第10パラグラフ)

[概要：相互に深く関連し合う目標と課題に取り組み、行動計画全工程の実現を図ることで、全世界の人々の生活と地球は改善・回復される。]

このパラグラフの指摘にある通り、本稿での考察対象には含み得ないが、SDGsに係る17の目標と169の課題の実質的な解釈とそれらの相互の関係に係る洞察は、具体の行動計画に反映させていく糸口をつかむうえで、重要な営みと思われる。2030年までの残り8年を悔いなく行動していくうえで、急がば回れの想いで、決議文の全体的理解に折あるごとに立ち返ることが求められているのではなかろうか。

3. おわりに

さて、ここまで、前文を手掛かりに、英語教育・学習を念頭に置きながら、若干の考察を加えてきた。その観点を振り返りながら、簡単に書きまとめると、次の6点となる。

1. 英文の構成上、SDGs 決議文の場合、通常の序論、本論、結論という構成とはなっていない。本論（本文）にあたる宣言文には、その序論にあたる導入部があり、その宣言文の内容への序説が展開されている。更に、この宣言文には前文が用意されており、決議文全体を統括する役目を負っている。全体の構成上、3つの入れ子の構造を成していることを指摘した。これにより、記述の重層性が増し、本論の骨子にあたる SDGs の目標と課題の理解が深まる。
2. 英文の解釈上、単語のみならず、ひとまとまりの句（フレーズ）を捉える視点が大切であることをみた。それは文脈上のキーワードの意味を立体化させ、理解を深める効果のあることを指摘した (e.g. poverty in all its forms and dimensions)。
3. 英文表現上、類義語表現がうまく活用されていること。同一表現を繰り返し使うことを避け

る傾向が確認できること (e.g. *end* vs. *eradicate*)、また、類義語であっても、繰り返し使うことを避ける目的ではなく、類義語間の微妙な意味の違いを表現し分けることがあること (e.g. *goals* vs. *targets* ; *people* vs. *person, human, individual*) を観察した。

4. 日常生活に深く根差しているメタファーの観察が行われた。SDGs の組織的展開が *trip* や *travel* でなく *journey* で表現されることで、長期に亘る苦勞の多い取り組みであることが示唆され、*journey* の関連語彙 *steps, embark, ways, goals* 等と呼ばれ込みながら、印象的な表現を読み手に与える点に注目した。
5. 文脈上の主題を活かす無生物主語構文の考察をした。SDGs という主題に視点が向けられる文脈の中で、その主題が際立つ方法で文が構成されている。
6. 抽象名詞の普通名詞化の観察をした。例えば、協力・連携関係といった抽象概念は通常、単数形 *partnership* によって表されるが、個別の具体的な関係に言及する際には *partnerships* のように複数で表示される。

英語教育・学習上、内容を考察する際には、話題にし得る語彙と文法を手掛かりに、できる限り源泉となるテキストそのものと正面から格闘し、その内容の解釈を考えることが大切と思われる。そして、その内容に様々な角度から応答できる学習環境を可能な範囲で、よりよく整えていけるよう心掛ける必要があるだろう。P で始まる5つのキーワード及びそれ以外のキーワードの意味をいかに捉えるか、そして17 *goals* と169 *targets* の相互関係をよく考えて、可能な具体的な行動に移していくことは時限付きの我々の課題となっている。

なお、SDGs の母体となっている MDGs (ミレニアム開発目標) 等について、テキスト間相互関連性 (intertextuality) や社会文化的観点から考察する必要があるが、それは本稿ではごく一部に限られており、ほぼ割愛されている点に留意しておきたい。

参考文献

- 岩田正美 (2015) 「貧困とその形態をめぐって—貧困の分布とダイナミズム—」『社会福祉』 vol. 56, pp.79-86.
- 江川泰一郎 (1991) 『英文法解説 第3版』東京：金子書房.
- Lakoff, G and M. Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: Chicago University Press.
- (1999) *Philosophy in the flesh*. Basic Books, A Member of the Perseus Books Group.

Texts

- United Nations (2000) “United Nations Millennium Declaration,” Resolution adopted by the General Assembly.
URL:https://www.un.org/en/development/desa/population/migration/generalassembly/docs/globalcompact/A_RES_55_2.pdf (2021年10月11日閲覧)
- (2015) “Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development.”
URL: https://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/70/1&Lang=E
(2021年10月11日閲覧)

辞書

- Cambridge International Dictionary of English*. (Cambridge University Press, 1995) (本文中、CIDE と略記)
- 『Genius 英和大辞典』(大修館, 2001)
- The Oxford English Dictionary*, 2nd ed. (Oxford University Press, 1991) (本文中、*OED*²と略記)

コーパス

- British National Corpus. (本文中、BNC と略記)

Interpreting the Preamble of SDGs:
Its Keywords and their Impact on English Education and Learning

TAKAHASHI Gen-ichiro

Keywords: SDGs, textual organization, lexical features, grammar, language education

Abstract

This paper suggests helpful teaching and learning points for consideration in English education classrooms. The recommendations are mainly based on the preamble of the “Resolution adopted by the General Assembly on 25 September 2015” (i.e., SDGs Declaration). This type of text might not be accepted as so-called academic prose. However, it seems conducive for collegiate and adult English education towards improving understanding and fostering potential societal impact.

In the text, organizational features and some grammatical aspects of the sentences have been analyzed. As a result, six recommendations for consideration are as follows: 1) a Chinese-box style organization of content, in which the preamble and the introduction to the Declaration are effectively used for the benefit of readers’ better understanding; 2) semantic phrasal chunks rather than each lexical item, such as in “poverty in its all forms and dimensions” or “goals and targets” ; 3) effective use of synonyms, like one alternative use of verbs “end vs. eradicate”, which means much the same, the other use of nouns “goals and targets,” each of which has a slightly different meaning; 4) effective use of a metaphorical word and its related ones and phrases, such as a “collective journey” for a long-term laborious activities and a few related words *embark*, *path*, *steps*, and “*no one will be left behind.*” ; 5) an inanimate subject construction, like “*the goals and targets will stimulate action over...*” ; and 6) conversion of abstract nouns to common nouns in number, such as in “Global Partnership for Sustainable Development” vs. “multi-stakeholder partnerships,” depending on the specific context. In conclusion, English language learning may be enhanced when considering these recommendations. Further investigation should be conducted to test these recommendations.